

ベジフル SAGA 4 月分栽培管理原稿

今月は、ハウスブドウでは摘房や摘粒、トンネル・露地ブドウでは萌芽時期となります。令和6年度産ブドウの品質を左右する重要な管理が集中する時期となりますが、迅速かつ丁寧な管理をこころがけましょう。

【ハウスブドウ】

●巨峰

○実止まり決定～硬核期

◇温度管理

昼温：25～28℃ 夜温：18～20℃

ハウス内は昼温が30℃以上にならないように、ハウス内の温度をこまめに確認して管理を行ってください。

◇水管理

果粒肥大促進のため、落花直後から満開後40日（硬核期）まで5～7日間隔で20～25mmを目安にかん水を行ってください。晴天が続き土壌が乾燥するような場合は、かん水頻度を増やして土壌水分を維持してください。

◇摘房・摘粒

〈房づくり目標〉有核巨峰

着房目安：5,000房/10a（園地条件や昨年の着色状況を考慮し調整する）

摘粒目安：30±3粒（1房350g目標）

段数：11～12段（11cm程度）

実止まりが確認できしだい摘房を始めます。花ぶるいがひどい房、形状の悪い房を中心に落としてください。前年の生産実績、樹勢や葉色を加味して最終房数を決定します。

摘粒は摘房終了後、有核と無核が判別できるようになったら始め、満開20日頃までに終わらせてください。硬核期（満開40～50日）の摘粒は縮果症を助長するため、早めに作業を終了させましょう。

●シャインマスカット

◇花穂整理

展葉8枚目以降、花穂の良否が確認できるようになったら、開花までに強い新梢は2花穂、弱い新梢は1花穂となるように整理を行ってください。利用する花穂は、軸がしっかりと先端までしっかりと花蕾のついたものを選びましょう。先端が分岐、扁平なもの、軸が湾曲したものや全体が細く貧弱な花穂は取り除きましょう。

◇花穂整形

花穂の肩が咲き始めた頃が、花穂整形処理の開始時期となります。花穂先端を3~4 cm程度残し、それより上部はジベレリン処理確認の印用の花を残して切り落とします。花穂整形が早すぎたり、花穂を長く残すと花穂先端の果粒肥大の遅れや着果過多にもつながりますので注意しましょう。

正常な形状の花穂を利用しますが、奇形花を利用せざるを得ない場合は以下の通りに花穂整形を行ってください。先端の扁平が軽度な場合は、扁平箇所を適度に切除して利用します（図1）。先端が分岐している場合は、分岐部を切除し利用します（図2）。

◇かん水

シャインマスカットは生育期間を通じてやや湿った状態（pf1.8）を保つようにかん水を行ってください。



図1 先端が扁平な花穂



図2 先端が分岐している花穂

●病害虫防除

※シャインマスカットは巨峰と比較してチャノキイロアザミウマ（スリップス）による果実被害を受けやすいため、開花期と実止まり後に必ず防除を行ってください。また、軟弱な葉を残しておくとチャノキイロアザミウマが集まりますので、副梢の摘心も徹底して行ってください。

〈落花直後〉

◇晩腐病、チャノキイロアザミウマ

・アミスター10フロアブル（1000倍）＋ダントツ水溶剤（4000倍）

〈小豆大〉

◇うどんこ病、チャノキイロアザミウマ

・インダーフロアブル（8000倍）＋アディオンフロアブル（1500倍）

〈袋掛け後〉

◇褐斑病、さび病

・オンリーワンフロアブル（2000倍）

【トンネル・露地】

○萌芽率の向上

萌芽期に土壤の乾燥が続くと、萌芽率や揃いが悪くなります。降雨が少なく乾燥状態が続くような場合はかん水を行い、土壤水分の保持に努めてください。

○芽かき

芽かきは、新梢の発生を促す、新梢の勢力を揃える、棚下の明るさを確保する等の目的があります。萌芽状況や樹勢に応じた管理を行いましょう。

◇長梢せん定

枯れこみの影響でドブヅルを多く残している園地については、先端部の芽かきを行い、基部からの発芽を促してください。

◇短梢せん定

副芽などの不要な芽、真上、真下を向いた利用が困難な芽は除去します。1つの芽座に残す芽が多すぎると、誘引の作業性が悪くなりますので注意しましょう。

○病害虫防除

〈萌芽期〉

◇晩腐病、枝膨病

・デランフロアブル（1000倍）

※主枝の先端部のワタ毛が立ち始めた頃、枝がたっぷりと濡れるように散布する。

〈展葉2～3枚〉

◇黒とう病、枝膨病、べと病

・キノンドーフロアブル（600倍、露地・トンネル後期被覆園のみ）

〈展葉5～6枚〉

◇コガネムシ類、黒とう病、枝膨病、べと病、晩腐病

・モスピラン果粒水溶（2000倍）＋デランフロアブル（1000倍）

※デランフロアブルの早期散布（展葉2～3枚）は、薬害が発生する恐れがあるので適期防除を行う。